

第2章 思考力・判断力・表現力等を育む素地となる学校・学級の取り組み

日常の取り組みを共有するために、県内各校での授業内外での取り組みを紹介します。

アイデア①「学校で組織的に取り組む」

【取り組みの概要】

落ち着いた学習環境づくりや子どもの学びに向かおうとする力の育成を、学校を挙げて大切にしています。

- 1 授業づくり
- 2 学校間や地域との連携
- 3 教員の連携、協働



【取り組みの内容】

1 授業づくり

(1) 子どもが主体的に学べる授業づくり

これまでの説明中心の授業から、子どもの主体的な学びを目指し、授業改善を図っています。そこで着目したのは対話を通して、記憶が定着し、知識が創造されるということです。授業では、インプット・アウトプットの機会を最大限確保するようにしています。

また、「分からなければ、何度でも友達に聞くことができる」と指導し、子どもに対話のイメージをつかませるようにしています。

取り組みのポイントは、学習方法の不断の見直し、指導内容の明確化、効果的なグループ学習にあります。これらの取り組みにより、グループ学習の位置付けが明確になり、基礎学力も定着しつつあります。

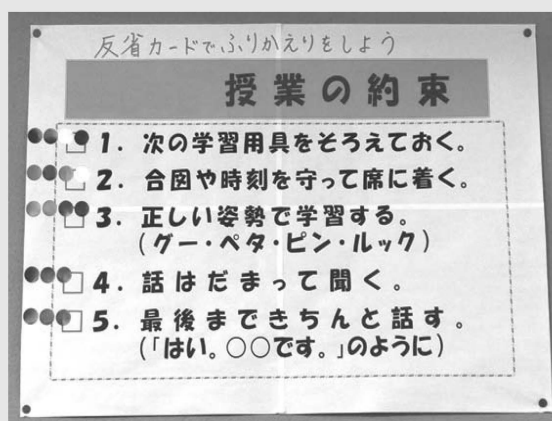


対話のあるグループ学習

(2) 規律ある授業づくり

全校で授業規律の徹底を目指しています。そのために行ったことは、授業の約束を作成し、全教室に掲示することと、子どもに意識付けを図るため、月に1回のアンケートによる振り返りを行うことです。振り返りには、色シール（100%が金、80%以上が青、80%未満が赤）を活用することで、視覚的に達成率が分かるような工夫をしています。

取り組みのポイントは、授業のルールづくり、定期的な振り返り、子どもの意識の視覚化にあります。これらの取り組みにより、授業への構えが意識され、落ち着いて授業を始められます。



振り返りの視覚化

2 学校間や地域との連携

(1) 小中連携

中学校区において、小中合同プランを作成し、家庭学習、あいさつの仕方等について統一しています。

また、陸上記録会前に中学校保健体育教員が小学校で指導したり、毎週、中学校教員が小学校で授業を行ったりしています。

小学校5年生で行うたしかめテストの分析においては、小中学校の教員が合同で行うなど、子どもの成長とつまずきを共有する連携にも力を入れています。



中学校区統一の礼

領域	校種	小学校						中学校		
	学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年
あいさつ	授業	始めと終わりにきちんとあいさつをする 礼の後 先生目を見て 合図を待つ								
	姿勢	手・足・背 ビビビ！ 手をピタッ！足を床にピタッ！ 背筋をピン！						背筋を伸ばして 止まる		
	あいさつ日本一の中学校区をめざして！ 毎月10日 あいさつ大使									
家庭学習	時間	20分		40分		60分		80分	100分	120分
	内容	音読・漢字練習・計算練習・ 自主学習など						予習・復習・ 自主学習など		
睡眠 (めやす)	就寝時間	9:00		9:30		10:00		11:00		
	起床時間	家を出る1時間前 朝食、排便、洗顔、歯みがき等を行う						定時を自分で 決める		

小中一貫のプラン

さらに、毎月、中学生が出身小学校に出向き、あいさつ運動を行ったり、異校種間でのピア・サポートを実施したりしています。

これらの取り組みのポイントは、中学校区の一体感、補完性のある小中連携、異校種間の交流学习・行事にあります。これらの取り組みにより、「中1ギャップ」の解消とともに、小中学校の教員の連携が強化され、中学校区で子どもを育てようとする機運が高まっています。

(2) 地域連携

地域とつながるために、子どもが頑張ったことや、子どもらしい言動を記事にし、地域に発信しています。中学校区内の小学校、公民館、学校評議員のみなさん等、子どもを支えてくださる方々に配布しています。

学校通信以外でも、外部講師の積極的な活用、公民館とのタイアップに努めています。

この取り組みのポイントは、子どものよさの発信、地域行事への積極的な参加、顔と思いと行動がつながる連携等に 있습니다。そして、子どもに「地域の方にほめられてうれしい」等の気持ちをもたせることが大切です。

これらの取り組みにより、地域の方からほめられることが多くなり、子どもは、学校生活に張り合いと充実感を感じるようになっていきます。

うれしい話題（学校新聞より）

先日、放課後、校長室のストーブに灯油を入れようと油庫からポリ容器を運んでいたら、自転車置き場にいた3年生の男子が走って私の所へ来て、「校長先生手伝います。」と声を掛けてくれました。「ありがとうございます。気持ちだけでうれしいよ。」と声をかけて校長室へ戻り、にこにこしながら灯油を入れました。

子どもを認める記事の一部



公民館でのサポート教室

3 教員の連携、協働 (1) スタートダッシュ

年度当初から基本的生活習慣・授業規律等を大切に、学力の向上を目指すために、「当たり前前を当たり前前にできるようにする」を教員の合い言葉に取り組みを行っています。

まず、整理整頓、下足箱の靴の入れ方、言葉遣い等、全ての子どもが毎日取り組むことを粘り強く指導します。また、指導したことは、立場、場所を変え教員が評価し、子どもにフィードバックしています。

この取り組みのポイントは、教員の同一歩調、子どものやる気にリンクすること、指導したことは必ず評価することにあります。そして、年度当初に、子どもに「今年は何かが違うな」という気持ちをもたせることが大切です。

これらの取り組みにより、年度当初の子ども達の頑張ろうとする気持ちに、さらに火をつけることができ、その後の学校生活全般の充実につながっています。



整然とした校内環境

(2) 共に学ぶ教員

日本一楽しい授業を目指すことを目標に、校内研究の見直しに取り組んでいます。子どもの視点に立ち、分かる授業、発達障害などの特性への対応、発問や教え合い学習などについて校内部会を立ち上げ追求しています。

また、教育に関わる最新の情報を共有し部会での研究や校内研修等で活用するために「職員室通信」を発行しています。

この取り組みのポイントは、教育情報の共有、学年・教科の壁を越えた研究、OJTを機能させることにあります。

これらの取り組みにより、学年・教科、キャリアステージの違いを越えて教員間で共に学んでいこうとする雰囲気が生まれ、相互授業参観も促進されています。

進取果敢
職員室通信

第 5 号
平成 27 年 11 月 16 日発行

□新しい授業への転換
現在、「授業心理学」ー認知心理学からみた教育方法論ー栗山和広著を読んでいます。今まで読んで本が統合された内容で、表現の難しい本ではありますが、内容はレベルが高く参考にするべきことが多くあります。

この本に示されている、「従来の授業と新しい授業の違い」で示されている新しい授業は〇〇型学習指導のスタンダードの進む方向とほとんど違いはありませんでした。そして、さらに進む方向を鮮明に指し示してくれるものだと思います。

従来の授業展開方法から、完全なる方向転換を行い、〇〇型学習指導のスタンダードが一日も早く確立できるよう、よろしくお願い致します。

新しい授業	従来の授業
認知心理学に基づく授業	行動心理学（行動主義）に基づく授業
認知心理学の研究内容に基づいた授業展開。	刺激と反応に基づいた授業展開。単純
1970 年前後にコンピュータの発展とともに心	なりハーサルが主流。20 世紀当初か
理学の主流となったため、授業に対する影響	ら心理学の主流であり、従来の授業展
は弱い	開に多大な影響を与えている
「分かりやすさ（深い理解）」を促進する 6 つの要素	
①既有知識（長期記憶化した知識）が新しい	知識を個々のものととらえる
知識の理解を促進させるととらえる	

教員の研究を支える職員室通信

アイデア③「伝え合い・学び合いを充実させる」

【取り組みの概要】

授業の中に、自分の思いや考えを伝え合ったり、学び合ったりする学習活動を適切に取り入れるとともに、場の持ち方や内容を工夫することで、学習活動を充実させています。

- 1 自分の思いや考えを説明する活動の習慣付け
- 2 自力解決の方法を身に付ける取り組み
- 3 説明する方法を身に付ける取り組み
- 4 グループでの学び合い
- 5 発達段階を踏まえた指導の共通理解
- 6 伝え合う活動記録の共有



【取り組みの内容】

1 自分の思いや考えを説明する活動の習慣付け

クラスには、自分の思いや考えを話したり説明したりすることが苦手で抵抗感をもっている子どもが多くいます。そこで、話すことに慣れ苦手意識をなくすることが大切であると考え、工夫を行っています。

まず1つ目は、話す時や説明する時に使える言葉やモデルを提示することです。「まず」「次に」「最後に」「同じで」などの使える言葉をいつも子どもの目に触れる場所に掲示しておくことで、話すことが苦手で抵抗感をもっている子どもが、それらを見て安心して話せるようにしています。

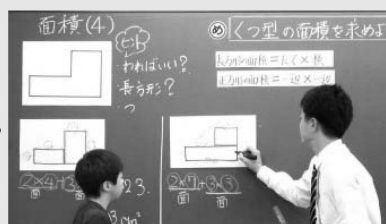
2つ目は、算数用語を積極的に活用することです。算数用語を使って説明をすることで、分かりやすい説明ができることを授業の中で体感したり、算数用語を板書に位置付け説明に使えるようにしたりしています。

3つ目は、話し合いの場の持ち方です。話し合い活動では、ペア→グループ→全体というステップが一般的ですが、少人数クラスのよさを生かし、ペア→全体、グループ→全体というように学習活動や子どもの理解度に合わせて柔軟に話し合いの場を設定するようにしています。また話し合いでは、話す視点や必然性に配慮し、目的を明確にした活動になるようにしています。

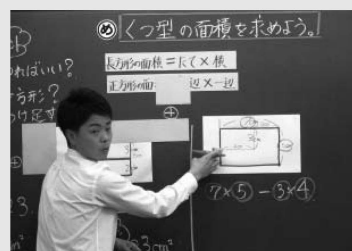
このような工夫の下、話す経験を積み重ねることで、自分の思いや考えを話したり説明したりすることが苦手で抵抗感をもっている子どもも話すことに慣れてきています。



話す時に使える言葉



算数用語を使った説明



算数用語が位置付いた板書



ペアでの話し合い

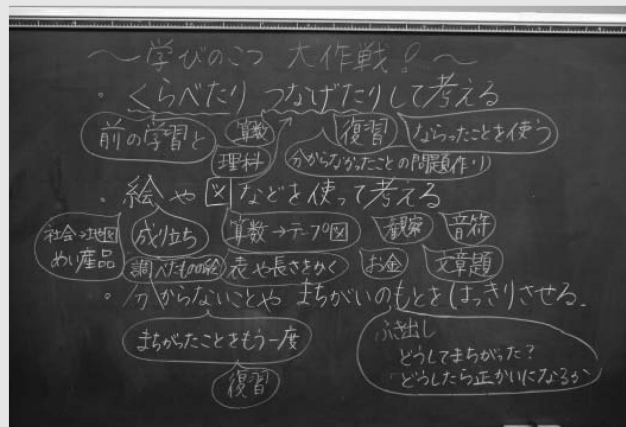
2 自力解決の方法を身に付ける取り組み

まず、自力解決で自分の考えをもたせることを大切にしています。「どのように考えたらよいか」という学び方を示し、授業や家庭学習の中で繰り返し行っています。そうすることで、「前に習った解き方を使うと分かりやすい。」「絵や図を使ったり、まるで囲んで分けたりすると分かりやすい。」などの学び方のよさを実感するとともに、問題の解決の仕方を身に付けることができるようになってきています。

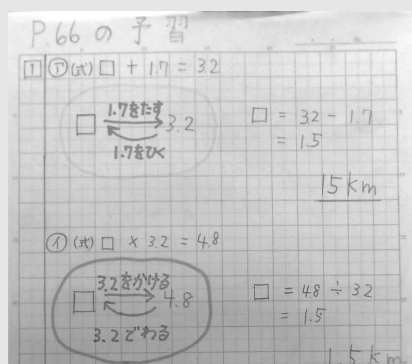
学びのコツ

1. くらべたり、つなげたりして考える
2. 絵や図などを使って考える
3. 分からないことやまちがいのものをはっきりさせる

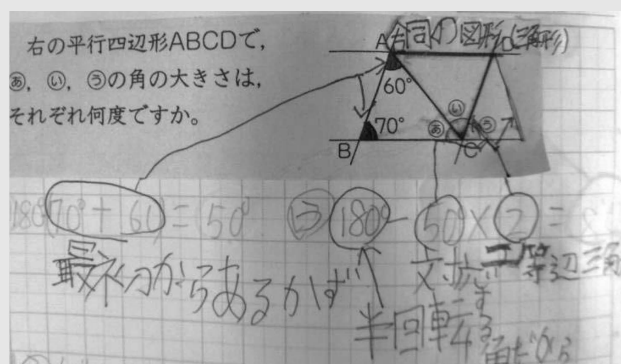
学び方を示した掲示



学び方について考える授業



学び方を活用した家庭学習



授業での児童のノート

3 説明する方法を身に付ける取り組み

次に、友達に分かりやすく説明する活動を大切にしています。具体物（数図ブロックなど）を操作したり、図と式を対応させたりしながら、自分が考えた解き方や式の意味などを友達に説明します。友達に分かりやすく説明することで、自分自身が学習内容を理解できているかを確かめることができると考えています。

また、一人で問題を解決したり、うまく説明をしたりすることが難しい場合は、友達と教え合ったり、協力して考えたりしながら解決することで理解できることを目指しています。

高学年になると、聞き手である友達の理解の状態やつまずきの原因を確かめながら説明することができるようになってきています。



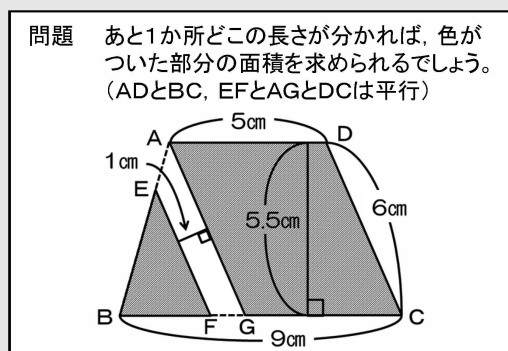
友達への説明

4 グループでの学び合い

学習したことを活用して、発展的な課題や誤解しやすい問題などに取り組む活動を、授業の中に設定しています。この活動では、発達段階に応じたグループ学習を取り入れています。

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
予習	学習内容の把握 ^a 教科書を音読する。		分かること・分からないことの区別 ^b ふせんにコメントを書いて教科書に貼る。		めあて意識をもった自立した予習 ^c ノートに図や大切だと思うことを写す。分からないことをもとに授業でのめあてを書く。	
理解確認	具体物や図を使って考え、説明する。	教科書を読む。大切だと思うところに線を引く。	図を活用して考え、キーワードや吹き出しを使って説明する。	図を活用して考え、吹き出しを使って説明を書く。	図を活用して考え、相手の様子確かめながら説明する。	「学びのコツ」をもとに、自分で内容を考えて予習をする。
理解深化 (グループ学習)	意欲的な交流 いろいろなペアで繰り返し説明する。説明することを楽しむ。		話合いの仕方に沿ったグループ学習 示された手順に沿って話合いをする。話合いの仕方を身に付ける。		コミュニケーションを通じた課題解決 分からない人が分かるように、相手に合わせて話し合う。	
振り返り	フェイスマークを使った自己評価 フェイスマークで自分の分かり具合を自己評価する。		文章による自己評価 分かったこと・分からなかったこと(内容)予習と比べて変わったこと(変化)分かったきっかけ(過程・状況)		家庭学習につながる自己評価 つまづいたこと(原因)大切な考え方、学習のコツ(学習方略)もっと考えてみたいこと(発展)	

取り組みの系統表



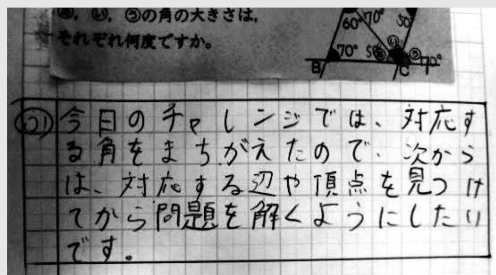
発展的な問題



話し合いの様子

自力解決の後、グループで解決方法を話し合ったり、協力して教え合ったりしながら問題解決をする活動を通して、学習内容の理解を深めます。そして、グループで学習したことを全体で発表し合うことで、それぞれの学びをクラス全体で共有化しています。グループ学習をすることにより、いろいろな考えや意見があることに気付いたり、それぞれの考え方の同じ所や違う所を整理することで、自分の考えや集団の考えを深めたりすることができると考えています。

また発展的な問題にチャレンジした後の振り返りの時間を大切にしています。振り返りでは「何が分かったか」「まだ分からないところはどこか」「分かるようになったきっかけは何か」など、自分の理解状況を振り返り、文章で表現しています。そうすることで、学習内容の定着を促し、学習意欲の向上へつなげています。家庭学習において授業の復習をする子どもの姿も見られるようになっていきます。



振り返りの記述

5 発達段階を踏まえた指導の共通理解

思考力・判断力・表現力等を育成するためには、子どもの発達段階に応じた指導を充実させることが大切であると考えています。そのために、伝え合う活動において育てていきたい子どもの姿を発達段階に応じて整理し、その姿を学校全体で共通理解しています。そうすることで子どもの発達段階に配慮した指導を行うことができ、意図的、計画的な指導につながっています。

机間指導のコツ

○学習活動の全体像を見取る。

発問や指示をした後、指示通りにできているかどうか、発問は理解できたかなど、そのときの反応や、学級全体の状況を把握し、必要に応じて個別指導や、全体指導を行う。

○児童の考えや活動を把握して次の展開に生かす。

学習課題に対して、一人一人の児童やグループがどのような考えをもってしているのか、活動をしているのか等を把握して、次の学習活動や展開につなげる。(取り上げる内容・方法・順番を確認する。)

○学習内容の個別支援をする。

学習課題に対する児童の学習状況を把握し、個別に支援を行う。つまりしている児童ばかりでなく、理解が早い児童やグループに対しても状況に応じた支援を行う。最初に行った支援が有効かどうか、確認する。

○児童を動かす。

机間指導の中で、一人一人の肯定的な声かけをすることで児童のやる気を育てる。

○指導のねらいに応じて声の大きさを工夫する。

個別指導は小さい声で行うのが基本であるが、他の児童のヒントにしたり、その子のよさを広めたい場合は、学級全体に聞こえるような大ききで話すなど、ねらいに応じて声の大きさを工夫する。

○順番を考える。

意図に応じ、限られた時間の中で、どのように回るかを事前に計画を考えておく。

話し方・聴き方の視点 (教師)

	聴く	話す	交流(伝え合い・相談)
低学年	○話す人の方へ体を向けて聴く。 ○うなずきながら聴く。 ○自分と同じか考えながら聴く。 ○正しいか考えながら聴く。	○順序に気を付けて分かりやすく話す。 ○結論から述べ、理由を話す。 ○ブロックなど具体物を操作したり、図を示したりしながら話す。	○ペアで自分の考えを紹介し合う。 ○ペアで考えが同じか違うか考える。 ○友達の発表のよかった点を発表する。
中学年	○自分の考えと比べながら聴く。 ○理由は何かを考えながら聴く。 ○分かりやすくできないか、考えながら聴く。	○聴き手の反応や様子を見て、確かめながら話す。 ○表、図、グラフを適切に用いて話す。 ○友達の考えを補って分かりやすく説明する。 ○友達の考えと比べて、自分の考えを話す。	○ペアやグループで考えを話し合う。 ○ペアやグループで考えを伝え合い、友達の考えや表現について意見を伝える。 ○友達の考えのやりとり聴き、発言する。 ○確かになったことや新しく分かったことを発表する。
高学年	○根拠の確かさを考えながら聴く。 ○友達の考えを比べて、共通点や相違点を考えながら聴く。 ○複数の考えを整理できないか考えながら聴く。 ○よりよい考えにしていこうとしながら聴く。	○表、図、グラフ、式などを関連付けて話す。 ○例や既習事項・経験とつなげて話す。 ○適切で分かりやすい表現を選び、簡潔に話す。	○友達の考えのよい点や改善点を話す。 ○多様な考えの共通点・相違点を発表する。 ○友達どうしの考えをまとめたり、分類整理したりして話す。 ○よりよい考えの理由を明確に話す。

6 伝え合う活動記録の共有

子どもの伝え合う活動をより充実した効果的なものにしていくために、「伝え合い記録票」を活用しています。授業における伝え合い活動の様子やそのときに行った教員の支援を授業参観者が記録します。そして、お互いの記録を基に、学校全体で話し合いをします。そうすることで、これまで行ってきた伝え合い活動を見直したり、よりよい活動にするためのアイデアやヒントを共有したりすることができます。

これからの授業での伝え合い活動をよりよいものにしていくよう自分自身の指導や支援の改善に役立てるようにしています。



学校全体での協議の様子

伝え合い記録票 (ペア・グループ・全体)

11月26日 教科・単元名 (算) 「¹きざん(2)」
授業者 () 記録者 ()

T: どこから9を取ったか教えて下さい。Aさん。
 A: 聞いて下さい。(10の方からまとめて9をとる)
 10-9=1です。(1と3を合わせて13-9=4です)
 B: すーい。このやり方(10から9をとる)が
 T: 先生もこのやり方すーいと思います。同じやり方でや
 いる人がまだいるのでやってみよう。
 G: (前に出て、10から9をとる。1と3を合わせる。)答えは4です。
 T: すーい天才じゃ。まだできる人。
 (3から取っていた子どもも多数手を挙げる。)
 教師の支援
 10のまとまりから取るやり方を教師が「すーい」と価値
 付けた。何がすーいか分かる?と発問することで、考え方の
 よさを子供達から引き出した。さらに、価値付けた考え方
 10のまとまりから取る方法を、違う考え方をした子供にも挑戦
 させ、本時の目標の達成へとつなげた。

伝え合い記録票

アイデア④「ノート指導を充実させる」

【取り組みの概要】

学習の中で思考の整理を行ったり、学習履歴を残したりするためのノートの活用を工夫するとともに、各教科の特性や発達段階に応じて学校全体で書き方を共有することで、学びの継続を目指しています。

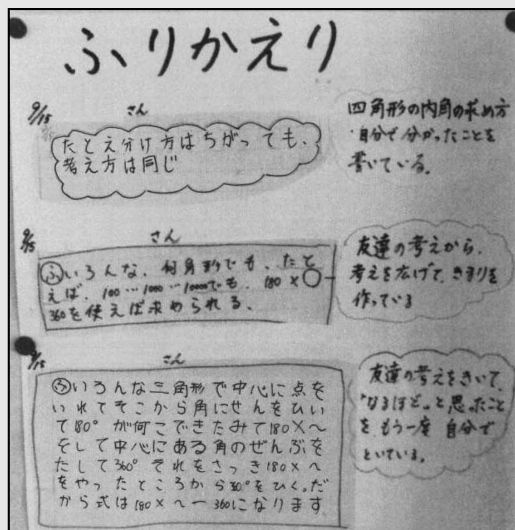
- 1 自分の考えを書くことを位置付ける
- 2 ノート指導の共通理解と使い方の統一



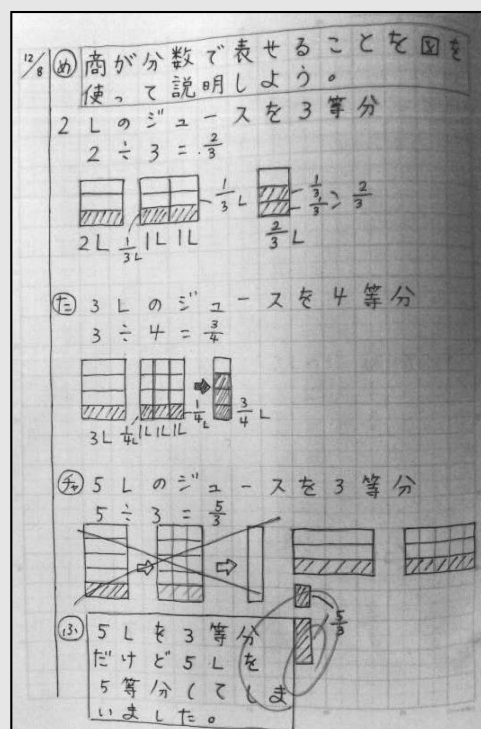
【取り組みの内容】

1 自分の考えを書くことを位置付ける

ノートの取り方については、板書の流れに沿って、そのまま記録して残す子どもが多くいました。そこで、自分の思いや考えを表現させる手段としてノートを適切に活用できるような工夫を行っています。



ノートの振り返りを集めて掲示



自分の思いや考えが入ったノート

1つ目は、ノートに自分の思いや考えを書く時間を十分に確保することです。課題解決の場面や考えを深める場面などでは、言葉や矢印、線などを用いて思いや考えを整理できるよう指導しています。

2つ目は、毎時間、授業の振り返りを行い、課題に対しての自分の考えをまとめ、学習の意欲の継続が図られるようにしていることです。また、ノートの紹介をすることで、友達の思いや考えを共有することができるようになっています。



友達のノートの紹介

2 ノート指導の共通理解と使い方の統一

各学級のノート指導を統一して、指導者が変わっても継続した指導ができるように配慮しています。基本的には「子どもの意識の流れに沿っている」「後から振り返ったとき、学習したこととその要点を確かめることができる」というようなノートを目指して具体的なポイントを系統立てて示し、授業の中で指導の徹底をしています。

【ノートの使い方】

ノートは学習には欠かせないものである。ノートを活用するよさを確認するとともに、「めあて」と「まとめ」を必ず書くなど学校全体で統一する点と各教科の特性や発達段階に応じて留意することなどを共有しながら指導する。

（1）ノート指導の意義

- 自分自身の学習履歴を残すことができる。
- 正しい書き方や様式を獲得することができる。
- 書くことによって思考の整理ができる。
- 友達の見え方や考えを書き込むことで、自分の考えに取り入れることができる。
- 教師からの評価やコメントが残り、次の学習の励みとなる。

（2）ノート指導の考え方の基本とその具体

① 考え方の基本

- 児童の意識の流れに沿っている。
- 後から振り返ったとき、学習したこととその要点を確かめることができる。

② 分かりやすいノートをつくる12のポイント

<必ず身に付けたい基本スキル>

1. 日付を書く
2. 単元名、問題、見出しを書く
3. 間を空ける
4. 関連ページを書く
5. 問題ページを書く
6. 縦線をそろえる
7. 振り返り（「わがとも」の観点で）を書く

<慣れてきたらおすすめのスキル>

8. 箇条書きを取り入れる
9. アンダーラインや四角で囲む
10. 記号を使う
11. 次の大小や色を工夫する
12. 吹き出しを使う

③ ノートに必ず書くこと

- ・ 日付
- ・ 単元名（学習題材名）…単元導入時
- ・ めあて
- ・ まとめ
- ・ 問題番号（教科によって）
- ・ ページ

イ 中学年

基本的なノートの使い方を繰り返し指導するとともに、要点を整理してまとめたり、事柄を関連付けたりするなど、ノートを活用して書くことができるように支援していく。特に、次のような工夫を促したい。

- 大切な言葉を囲んだり、朱書きしたりする。
- 思ったことや考えたことを順序立てて書いたり、要点を箇条書きにしたりする。
- メモの役割と取り方を知り、ノートでメモとしても活用する。
- 絵や図、矢印等の記号を使う。
- 関連したところを消しゴムですぐに消そうとする傾向が強くなるが、単純な表記ミス以外は消しゴムで消さずに残す。そのことが次の学習に役立ってくる。

ウ 高学年

自分の考えを筋立てて書くことに重点を置く。基本的なノートの使い方について児童の実態に合わせて継続して指導するとともに、一層工夫して書くことができるように支援していく。

- 自分の意見や考えを、根拠を明らかにしながら整理して書く。
- 友達の見え方や考えの共通点や相違点を明らかにしながら、新たに考えたことなどを書き加えていく。
- 図や矢印等を効果的に使う。

エ 全学年

ノートの使い方に関して、以下の点については教員全員で共通理解をし、全校で取り組む。

- 「めあて」は赤線、「問題」白線（ノートには黒線）、「まとめ」は青線で囲む。
 - ノートに引いた縦線の左には、日付・ページ・問題番号などを書く。
 - 「分数」でのマスの使い方は二マスの中に書く。
- また、以下の点などについては年度初めに学年団で決めて、共通理解をしておく。
- 「筆算」での繰り上がり、繰り下りの書き方
 - 「大きな数」でのマスの使い方

（3）ワークシートの活用について

優れたワークシートは、一人一人の学習を確かなものにする。しかし、教材研究が十分に行われない中で作成されたものは、かえって効果が上がらないことがある。また、児童にノートづくりの工夫を促すという点からも、安易にワークシートに頼らないということも大事である。ワークシートを活用する場合は、綿密な教材研究の基、ねらいと身に付けたい力、使う場面・時間等を十分に検討しておく必要がある。

④ ノート指導において留意すること

ア ノートを大切に扱うように指導する。

ノートは自分自身の考えの軌跡であり、学習の記録である。大切に扱わせたい。

具体的には、次の点に注意する。

- 正しく丁寧に書くよう心がけさせる。
(丁寧さは…文字や数字がマスからはみ出していない。止めやはらいがある文字を書くこと。)
- 直線は定規で引く。
- ゆったりとした使い方を。 (行間を空ける。)
- 落書きをしない。破らない。前から順序よく使う。
- 下敷きを使う。
- 適切な筆記用具で書く。
- 使い終わったノートは大切に。 (丁寧に扱う。)

イ 板書を写すだけでなく、考えや感想等を整理し、記録するように指導する。

板書の中から必要なところを写すことも大切な学習である。特にノート指導の初期である低学年においては、教師と共に、板書を正しく写す経験を重ねていくことが大切である。しかし、発達段階に応じて丸写しだけで終わらせないようにする。思ったことや考えたこと、新しく知ったことなどを言葉や図、絵、記号等で書き加えたり、資料の切り抜きを活用したりと、学習のねらいに応じて自分なりの工夫をし、分かりやすいノートづくりを促す。

ウ ノートに書く時間を確保する。

時間が確保されなければ、ノートを随に書いたり、教師や友達の話を書くべきときにひたすら書いたりということが起こる。1単位時間の学習を組み立てるときに、どこでどのようにノートを活用するか考えておきたい。

エ 随時ノートを評価する。

ノートに書かれていることから児童のよさやがんばりを捉えて、朱で丸を入れたり、励ましの言葉を添えたりすることは、大切である。児童の学習の励みとなる。

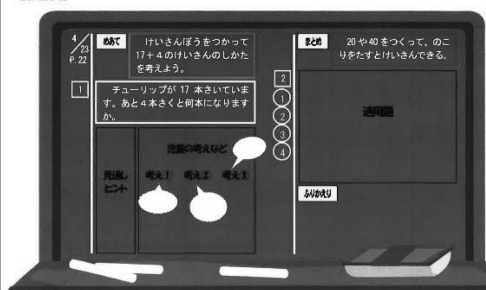
⑤ 発達段階に応じたノート指導

ア 低学年

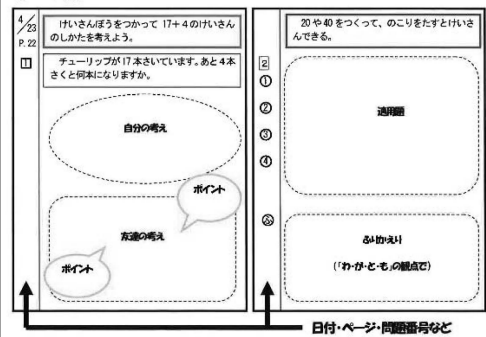
書くこと自体が大切な学習となる。ノートの基本的な使い方を中心に指導する。その際、次のような点に気を付ける。

- 書き始めの場所を教師が示し、教師も児童のノートと同じマス黒板を使ったり、児童のノートの字数に合わせて板書したりする。改行や空白行、区切り等を入れて書くことも手本を示し、ノートづくりの基礎を培う。めあては赤、問題は黒、まとめは青で囲むように指導する。
- 書く速さを意識することができるように、教師が黒板に書くのに合わせて書き始め、教師と共に書き終わることを意識的に行う。
- 必要なことは正しく写すことの大切さを指導しながらも、言葉や絵などを描き加えながら、自分なりに工夫してノートを使うことを少しずつ行っていく。

【板書例】



【ノート例】



上記のように使い方を共有することで、子どもは年度が替わっても、効果的にノートを使うことができるようになってきています。

ワークシートについては、ノートづくりの工夫を促すことや、教材研究が十分に行われない中で作成されたワークシートの効果は低いことから、安易にワークシートに頼らないということが大切だと感じています。

アイデア⑤「各教科等に音読・視写を取り入れる」

【取り組みの概要】

目と耳と口と手足を使った音読や視写を活用して、学習活動の充実を目指しています。

- 1 すべての教科で音読・視写
- 2 授業外の時間に行う音読



【取り組みの内容】

1 すべての教科で音読・視写

各授業の最初の約5分間に全員で音読を行っています。音読はインプットとアウトプットを同時に行う作業です。このことで、学習のウォーミングアップとなり、学習効果が高まります。また、数学や理科の問題文を声に出して読むことで問題の趣旨を理解する力が高まったり、前時の学習内容のまとめや重要事項を繰り返し音読したりすることで基礎・基本の定着にも効果が期待できます。

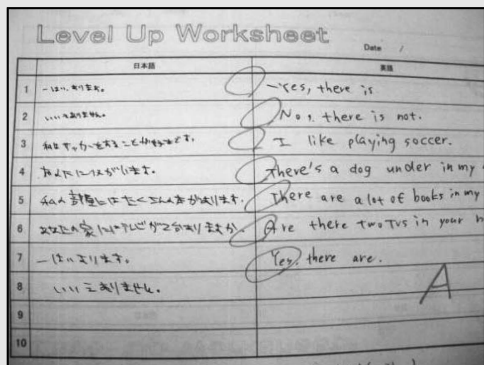


全員そろって大きな声で

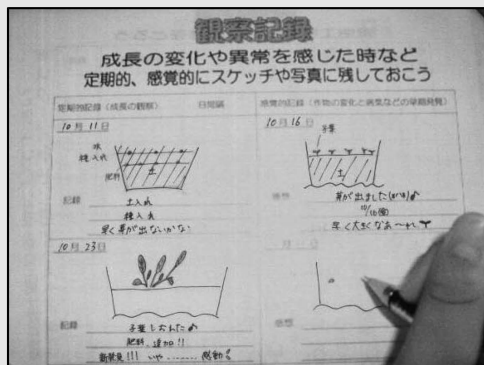


アルファベットを声と体で表現

視写については、授業のまとめやポイントを時間を区切ってすばやく書き写したり、作図やスケッチを丁寧に正確に書き写したりしています。また家庭学習の習慣化を目指し、授業で扱う部分の予習として教材や例題を書き写したり、解説や解き方を授業の復習として書き写したりすることを課題として課しています。視写することで子どもたちは文章の構成や表現技法を理解したり、集中力を身に付けたりすることができます。



英文をすばやく



観察記録を丁寧に

取り組みのポイントは、「シンプルである」「すぐできる」「いつでもできる」「授業に使えるものである」ことなどです。

これらのポイントは全て「継続させやすい」ことへとつながっています。継続して行うことでその効果が高まると思い、取り組んでいます。



継続しやすい取り組み

【音読・視写の実践例】

教科	音読	視写	教科	音読	視写
国語	読ませたい名文	新聞のコラム	音楽	歌詞	楽譜
数学	いろいろな公式	答えまでの過程	美術	各自の制作手順	制作物
社会	前時の重要語句	歴史用語の漢字	保体	保健の重要語句	応急手当の図
理科	実験の手順	実験器具	技術	作業の手順	工具や栽培物
英語	簡単な日常会話	重要構文	家庭	実習の調理手順	完成予想図

2 授業外の時間に音読を行う取り組み

毎週時間を確保し、音読や計算・漢字練習に取り組んでいます。このときには担任だけでなく、支援員や地域の学習ボランティア（高校生も参加）の協力も得て、複数体制できめ細かい指導ができるようにしています。

取り組みのポイントは、指導者と子どもたちが共に読むことです。これにより、語句の読み、アクセント、速さ、抑揚、間などを教えることができます。上手な点をほめることで、声に出して読むことを嫌がらずに行う動機付けとなります。

また、縦割り班で音読発表会を行っています。縦割り班で行うと、低学年の子どもが高学年の発表を見本にしたり、高学年の子どもが低学年にも分かりやすく表現するよう心掛けたりと、読み手、聞き手を意識した活動ができます。

取り組みのポイントは、発表前に姿勢・発声・発音の基本的技能に留意するように促したり、発表後には「いちばん工夫したところはどこですか？」「なぜあそこをあのようにしたのですか？」と自己評価をさせる問いかけを行ったりすることです。



学習ボランティアと子どもで共読み



音読発表会の様子

アイデア⑥「日常的に書く活動を行う」

【取り組みの概要】

書く時間を確保したり、書く内容の視点を示したりすることで、子どもが日常的に書く活動に取り組むことができるよう工夫しています。

- 1 帰りの時間での振り返り活動
- 2 テーマ日記



【取り組みの内容】

1 帰りの時間での振り返り活動

子どもは、1日の授業で多くの知識・技能を学んだり、新しい気付きを得たりしています。授業内ではそれらの内容について十分な振り返りの時間を確保できないことがあります。そこで、帰りの時間の一部に振り返りカードを記入する時間を3分間設けました。

この時間で、1日の授業の全てを振り返ることはできませんから、「最も重要だと考えた内容」に絞って記述させます。そのことにより子どもは、頭の中で1日の学びを振り返ることになります。

「振り返りカード」は1週間で1枚になるようにしています。そうすることで、1週間の学びを一目で捉えることができるように工夫しました。週の終わりには、「1週間の学びの感想」「今後の改善」を書かせるようにしました。

また、「振り返りカード」は、自分の学びの軌跡として、ファイルに収めていきます。このファイルは各月や学期などの節目に、学習への取り組みについての振り返り、自分自身の成長や新たな課題の発見等につながるように活用しています。

【学びの振り返りカード】	
年 組 番 氏名 ()	
今週の学習目標	
月 日	
火 日	
水 日	
木 日	
金 日	
感想と今後の改善	

振り返りカード

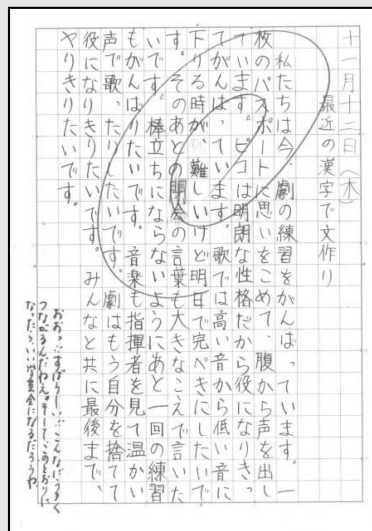
2 テーマ日記

全ての学年で毎日、日記を書いています。その日にあったことをつづるだけでなく、テーマを決めて取り組んでいます。

テーマは自分で決めても、「もしも私が〇〇だったら」「これ知っていますか？」など、あらかじめ示しているリストを参考にしてもかまいません。毎日書くことで、子どもは書くことへの抵抗感が少なくなります。

日記のメニューリスト(何を書こうかなとまよったらここを見てね)

- 1 なりきり日記(何かになりきって書く)
- 2 実は私〇〇なんです!(自分の秘密を書く)
- 3 今なら言えることですが...(打ち明け話)
- 4 ありがとう!(感謝の気持ちを伝える)
- 5 〇〇は苦手(自分の苦手なもの)
- 6 〇〇ならまかせて!(自分の得意なこと)
- 7 このごろ〇〇ですねえ...(最近感じたこと)
- 8 春(夏・秋・冬)ですねえ...(季節を感じたこと)
- 9 拝啓〇〇様(手紙)
- 10 こんなものを見つけました!(見つけたこと、ものを知らせる)



最近学習した漢字を使った日記

アイデア⑦「読書指導を充実させる」

【取り組みの概要】

子どもが本に親しみ、読むことの楽しさやおもしろさを感じることができる取り組みを行っています。

- 1 100冊読書にチャレンジ
- 2 国語の授業での並行読書
- 3 委員会活動や家庭との連携



【取り組みの内容】

1 100冊読書にチャレンジ

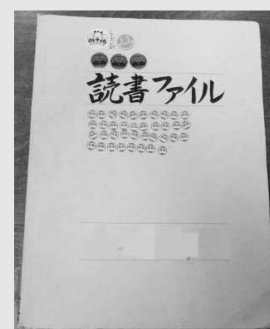
朝学習や授業、家庭学習で読書を取り入れています。

低学年は年間100冊、高学年は50冊読むことを目標にしています。

子どもは自分の好きな本や先生のお薦めの本をたくさん読んでファイルに記録しています。



興味や関心を引く本の紹介



読書ファイル

2 国語の授業での並行読書

国語の授業で読んだ物語のシリーズ作品を並行読書しています。

自分のお気に入りの本を選ぶことで、読書意欲が高まっています。

読書量がだんだんと増えていき、読む力も付きます。



国語での並行読書



シリーズ作品を見る子ども

3 委員会活動や家庭との連携

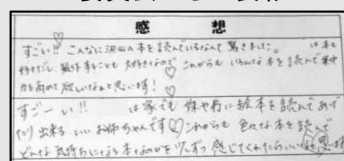
読書週間には、委員会が主体となり、全校で読書推進活動に取り組みます。また、家庭には学級通信で読書のよさを知らせたり、感想や励ましをもらったりして、子どもの読書意欲を高めるようにしています。



放送図書委員会の読み聞かせ



委員会からの表彰



保護者からの感想や励まし

アイデア⑧「新聞を活用する(朝学習)」

【取り組みの概要】

朝学習の時間に、新聞を活用した取り組みを行っています。児童がいつでも新聞に触れられるようにするとともに、教員も提示すべき新聞記事の内容を捉えるようにしています。

- 1 新聞記事の感想を伝える朝のスピーチ
- 2 新聞記事に対して自分の考えを整理して書く



【取り組みの内容】

1 新聞記事の感想を伝える朝のスピーチ

朝のスピーチの際には、新聞記事の切り抜きをノートに貼り、自分のコメントを書いて発表するようにします。

朝のスピーチは、1年間を通じて行うようにします。継続的な活動の取り組みにより、休み時間には新聞を手にとって読む、伝えたい情報を選んで選ぶといった子どもの姿が見られるようになります。

子どもが取り上げる新聞記事としては、日々のニュースや社会科で学習した内容と関連したものなどが多く見られます。



スピーチの様子



新聞を手にする様子

2 新聞記事に対して自分の考えを整理して書く

月に2回、4～6年生を対象に、新聞記事を活用して作成したワークシートに取り組む活動を行っています。この設問では、比較したり関連付けたりしながら考えをまとめられるような問い方をしています。

また、条件も明確に位置付け、記述内容の構成についても自分で整理しながらまとめることを求めています。

こうした取り組みを計画的に行うことで、子どもが自分の考えを書くことに対して抵抗感をもつことがなくなっていくます。

子どもがまとめたワークシートは、廊下の掲示板に貼り出しておきます。他学年の考えなども確認することを通して、自分の考えをさらに深めることにつながっていきます。

8月29日の朝日新聞に、中学生が「女子力」について投稿（新聞に自分の考えを送ること）しました。その記事を読んだ他の人が自分の意見を書いて、朝日新聞に投稿しました。10月7日の朝日新聞では、その意見文をとりあげています。

8月29日 中学生高木さん・「女子力」とは、何だろうか。

女子力を上げるために、内面を高めたい。

A・・・69才の男性

「女子力」とか「男子力」ではなく、「人間力」をみがいてほしい。

B・・・17才高校生女性

読書で女子力をあげるの、いいこと。

これを読んでいるあなた・・・小学4・5・6年生 男子 女子

- (1) 自分は生活する上で、どんなことが大切だと思いますか。()
- (2) そう考えたものに「〇〇力」と名前をつけてみましょう。()
例 女子力 男子力 人間力 生命力 行動力 スポーツ力・・・
- (3) 高木さんやA・Bさんに、自分の考えを伝えたとしたら・・・条件にしたがって書いてみましょう。

(条件)

- 書き出しは1マス下げ、50字以上80字以内で書くこと。(横書き)
- はじめに、自分は、「〇〇力」が大切と書くこと。
- 次に、そう考えた理由を書くこと。
- 呼びかける言葉を使ってもよい。

ワークシートの一部



ワークシートに取り組む様子



考えをまとめた掲示物

アイデア⑨「新聞を活用する(授業)」

【取り組みの概要】

新聞記事を授業で活用する取り組みを行っています。新聞に掲載された写真の説明、記事の比べ読み、意見文を書くための材料集めなどに新聞を活用しています。

- 1 「アップとルーズで伝える」の学習(4年生)
- 2 「立場を明確にして発表しよう」の学習(5年生)
- 3 「平和のとりでを築く」の学習(6年生)



【取り組みの内容】

1 「アップとルーズで伝える」の学習(4年生)

4年生の「アップとルーズで伝える」の学習では、アップで撮った画面とルーズ(ロング)で撮った画面を提示しながら、その長所や短所を詳しく解説している文章について、対比の説明の仕方の効果について捉えていきます。

その後、中学年の「書くこと」における言語活動例「収集した資料を効果的に使い、説明する文章などを書くこと」を

具体化し、自分の選んだ新聞に掲載された写真の特徴について、何を伝えようとしているのかを文章で説明する活動を行います。ここでは、「アップとルーズで伝える」の説明文から得た知識や説明の仕方を生かして、新聞に掲載された写真などについて自分なりに説明していくことになります。

2 「立場を明確にして発表しよう」の学習(5年生)

5年生の「立場を明確にして発表しよう」の学習では、2社の新聞記事を読み比べた後に、賛成か反対か自分の立場を決め、説得力のある意見文にまとめます。取り上げる新聞記事は、学校にエアコンを設置することへの是非を問うものです。

A社：エアコン設置に反対の市長の考えを取り上げたもの

B社：エアコン設置により夏休みの補習ができるよさを取り上げたもの

実際の授業では、次のような児童の意見が挙げられました。

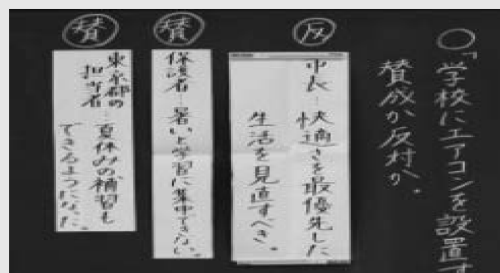
＜児童の意見(賛成)＞

- ・外遊びから帰ってきた教室は、とても暑くて学習できる状況ではない。など

＜児童の意見(反対)＞

- ・電気代が高く、環境にも悪い。など

説得力のある意見にするためには、体験を語ることや事実を数値で提示することなどが必要だと気付いていきます。



授業における板書

3 「平和のとりでを築く」の学習(6年生)

6年生の「平和のとりでを築く」の学習では、平和や戦争、原爆などに関する意見文を書いて、学校内外の人に伝えるといった目的意識をもって学習を進めます。描かれている歴史的事実と筆者の意見の関係を捉えながら自分の考えを明確にしていきます。意見文を書くときには、教科書の内容だけでなく、新聞記事の内容を根拠として取り上げ、友達と助言をし合いながら説得力のある意見にまとめていきます。



材料を新聞から集める児童

アイデア⑩「新聞を活用する(学校行事)」

【取り組みの概要】

修学旅行や職場体験学習などの学校行事での学びを発信・交流するために、新聞づくりに取り組んでいます。

質の高い新聞づくりにするために、行事の事前には新聞への興味・関心を高め、基本的な書き方を身に付ける取り組みをしています。事後には、新聞社のコンクールに応募するなどの評価の機会を設けています。例として、広島研修を中心として取り組みを紹介します。



【取り組みの流れ】

1	新聞記事の視写
2	スクラップ新聞の作成
3	広島研修新聞の作成
4	コンクールへの応募

基本的には1週間継続的に家庭学習で行います。取り組みの始めに、目的と計画を示し、その後は、毎日の帰りの会で当日の課題の確認を行い、翌日の朝の会で提出をさせます。

ここでは、1～4の計画を示していますが、時間の確保が十分にできない時は2～4の計画で行う場合があります。

1 新聞記事の視写

教員が「戦争や平和」に関して一定の文章量のある記事を切り抜き、プリントにして配付します。子どもはその記事を視写し、内容に対する感想を書きます。

2 スクラップ新聞の作成

テーマ(例「平和」)を決めて、新聞記事を集め、見出しを付けたり、感想を書いたりして、新聞形式にまとめます。

① 子どもに1週間を通して、「戦争や平和」に関する記事を、1日につき1～2つ切り抜かせ、その記事を選んだ理由と感想を書きます。

② 1週間ためてきた複数の記事の中から、一枚の新聞にまとめるために、いくつかの記事を選びます。

③ 選んだ記事に見出しを付けます。

④ 選んだ記事から感じたことをまとめます。



生徒新聞1
戦没者の慰霊に関わる出来事を2つ選んでいる



生徒新聞2
国際的な紛争に関わる出来事を2つ選んでいる

3 広島研修新聞の作成

広島研修での原爆資料館の見学、語り部の方のお話やインタビュー、碑巡りなどを通して学んだことを、新聞の形式で表現させます。

事前に視写やスクラップ新聞作成を学習したことで、新聞を作成することへの関心・意欲が高まるとともに、新聞を書くための基本的な知識・技能を身に付けているので、スムーズに取り組むことができます。

完成した新聞はクラスで発表し、優秀な作品を選び、廊下等に掲示し、全校で共有します。



生徒新聞 1



生徒新聞 2



制作の様子

取り組みのポイントは、グループで1枚を作成する形態の取り組みにすると個人の作業量に軽重ができてしまうので、一人一人が確実に力を付けたり、表現したりするために、全て個人で取り組んでいることです。

4 コンクールへの応募

子どもの関心・意欲の向上や、作成した新聞へのプロからの評価を求めて、新聞社が主催しているコンクールへの出展を継続的に行っています。これにより、子どもだけでなく、保護者も楽しみな取り組みになっています。

その他の取り組み

- 見出しを考える
1週間を通して毎日1つのコラム記事を紹介し、その見出しを考えさせます。取り組みの終わりには、優れた見出しとその理由を考えさせ交流させます。
- 5W1Hの書き抜きと再現
1週間を通して毎日1つずつ記事を紹介し、5W1Hを観点に情報を書き抜かせます。取り組みの終わりには、これまでとは逆に5W1Hの情報を与え、元の新聞記事を再現させます。

- 同じ話題の記事でも、記者が注目するところや編集の仕方、内容が違っていると気付きました。
- 読み手に伝えるためには、いろいろな言葉を使い分けることが必要なので、大変だったけど、制作することは楽しかったです。



平成27年度岡山県総合教育センター所員研究（共同研究；教科教育）
「学力向上を図るための指導に関する研究Ⅱ」
研究委員会

指導助言者

村上 尚徳 環太平洋大学教授

協力委員

小野 桂	倉敷市立万寿小学校教諭
石川 雄大	早島町立早島小学校教諭
平松 敬子	高梁市立高梁北中学校教諭
春名 幹夫	美作市立美作中学校教諭

研究委員

佐藤 裕之	岡山県総合教育センター教科教育部長
植月 慎二	岡山県総合教育センター教科教育部指導主事
田野 利昭	岡山県総合教育センター教科教育部指導主事
福田 知子	岡山県総合教育センター教科教育部指導主事
鈴木 隆幸	岡山県総合教育センター教科教育部指導主事
山本 結城	岡山県総合教育センター教科教育部指導主事
堤 麻理子	岡山県総合教育センター教科教育部指導主事
久次 正浩	岡山県総合教育センター教科教育部指導主事
秋田 浩志	岡山県総合教育センター教科教育部指導主事
中川 泰輔	岡山県総合教育センター教科教育部指導主事
大塚 康広	岡山県総合教育センター教科教育部指導主事

連携機関

岡山県教育庁義務教育課

※ この冊子を作成するに当たり、次の学校に情報を提供していただきました。

倉敷市立大高小学校
浅口市立六条院小学校
井原市立井原小学校
矢掛町立中川小学校
鏡野町立鶴喜小学校

倉敷市立倉敷第一中学校
倉敷市立真備東中学校
総社市立総社中学校
高梁市立川上中学校
赤磐市立磐梨中学校

平成28年2月発行

子どもの学びを支えるヒント集2
～ 思考力・判断力・表現力等を育むために ～

編集兼発行所 岡山県総合教育センター
〒716-1241 岡山県加賀郡吉備中央町吉川7545-11
TEL(0866)56-9101 FAX(0866)56-9121
URL <http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/>
E-MAIL kyoikuse@pref.okayama.lg.jp

お問い合わせ 教科教育部 TEL(0866)56-9103
Copyright©2016 Okayama Prefectural Education Center